

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1275200051		
法人名	有限会社 エステイケア		
事業所名	グループホーム ふれ愛		
所在地	千葉県旭市万力318番地		
自己評価作成日	平成27年9月1日	評価結果市町村受理日	平成28年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php">http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成27年11月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針である「ゆっくり一緒に楽しく」をモットーとして、認知症状のある方が楽しく日常生活を送れるように努めています。  
お客様が家庭的な環境のもとで、幸せを感じられるサービスに取り組んでいるところです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの理念である「幸せを感じる」を「ゆっくり一緒に楽しく」という運営方針に落とし込んでおり、職員は利用者の意思を尊重した支援に努めている。訪問した日にも、職員が利用者と一緒にテーブルに座り、利用者の食べたい物や行きたいところを聞く場面が見られた。また、午前と午後に行うラジオ体操、散歩など、利用者が体を動かせるようなプログラムを考えるとともに、食事の際の手伝いなど、生活リハビリも大切にしている。利用者の重度化が進んでいるが、その中でも「幸せを感じる」ことができるような支援に努めていることが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム設立当初に、職員と共に創り上げた、職員全体で共有し、家庭的な雰囲気をも大切に日々努めている。	理念である「幸せを感じる」を「ゆっくり一緒に楽しく」という運営方針に落とし込み、職員間で共有し、支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コンビニにまでの買い物、散歩など外出を通し、近隣の方と接する機会がある。また毎年地域の祭りに参加、見学を楽しんでいる。	ホームは、地域との繋がりを常に意識し、利用者が地域と交流できるように努めている。夏祭りに参加したり最近できたコンビニエンスストアにもよく出かけている。利用者が、近所の家でお茶をご馳走になるなど近隣と交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者一人ひとりのペースを大切に支援をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	近隣住民、入居者家族、市の職員など参加しホームの状況、質疑応答など意見を取り入れてサービスの向上に努めている。2か月に一度は開催できている。	地域の人の家族、市担当課職員が毎回参加し、2か月毎に開催している。利用状況、事業計画、介護保険法の改正による料金変更についてなど時宜に沿ったテーマで話し合いを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月入居者の変動の連絡を取り、随時互いに訪問したり、電話での連絡を取ったりし、協力関係を築いている。	月に1回は市の担当課に現況報告をしている。また、市や地域包括支援センターには助言を求めたり相談をすることもあり、連絡は密にとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則として行わない、職員は身体拘束について研修等で学び、常に拘束しないケアを心がけている。又会議などで話し合う。	身体拘束をしないケアについては、内部研修や会議の中で職員間で確認して取り組んでいる。玄関は開放しており、センサーも使用しないで、支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議等で虐待について周知徹底している。少しの傷なども見過ごすことなく注意を払い、皆で確認するなど対応している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応者の方には支援しています。成年後見制度等については職員研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書、重要事項説明書にそって説明を行い、同意、納得をいただく。改定の際はその都度説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口を伝え、ホーム内担当者を伝えている。また、ご家族が運営推進会議や家族会に出席された時に意見、要望等を伺っている。	家族などの意見は運営推進会議をはじめ、家族会や家族訪問時に聞いて、柔軟に対応し改善に努めている。利用者の気持ちは生活の中から汲み取るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見や提案が言いやすい雰囲気作りを行っている。また、年1回職員アンケートを実施している。	月に1回行われているユニット毎の職員会議には法人の代表も出席し、ホーム全体での話し合いが行われており、職員の意見や提案を検討する場となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩時間は入居者と離れて過ごす等、ストレスを抱えないよう環境作りに心がけている。今後も更なる好条件への検討を図りたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの資格、経験に応じ、ホーム内・外の研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接市等の同業者との交流関係があり、電話連絡や職員交流があり、情報交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、安心して頂くよう、本人の希望等を十分聞いて対応に努めている。職員「ゆっくり一緒に」過ごすようにしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に十分話をうかがい家族に安心していただくよう心がけ信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と相談、話し合いを十分行い本人に合った対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者一人ひとりの経験などを尊重しお互い家族の一員のように築くよう心がけている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム、家族と共に支えていく関係を大切にしている 家族対応による通院、外出、外泊などの支援をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人知人の面会があり、本人の居室で楽しんで頂いている。家族と一緒に馴染みの場所に外出したりしている。	家族や友人、長年の付き合いのあるご近所だった人などがホームに利用者を訪れており、ホームは歓迎している。またお盆やお正月の一時帰宅など、馴染んできた場所や人との関係継続を支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりを把握し利用者同士の関係に支障が生じないよう努めている。行事、余暇、活動、席替えの支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時には、必要な情報提供を行っている。入院時には必ず面会を行う。これまでの関係を大切に出来る限りの事をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の家族の思いに耳を傾け提案や助言をその都度行っている。日常生活でのさりげない会話や入浴時、トイレ誘導など、1対1のケアの時に聞くことが多い。聞き取った内容は業務日誌に記入し職員間で共有している。	「外に出たい」などの利用者の希望はその都度対応している。また、利用者の様子や言葉から思いの把握に努めており、時にはケアプランに反映させることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時情報収集に努めている。常に一人ひとりに合ったサービス提供が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりできる事、できない事を判断し、持っている力を引き出せるよう支援している。職員会議で支援の方法を検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、職員会議で出た現場職員の意見や、面会時の家族の意向などを、もとに作成している。遠方の家族には介護計画書を送付して意見を聞きケアプランに反映させている。	介護計画はフロア会議で行う現場職員によるカンファレンスをもとに、ケアマネジャーや管理者、看護師で話し合い作成している。家族の意見は面会時などに聴いている。尚、見直しやモニタリングは6か月に一度行っている。	利用者一人ひとりの状況と介護計画にずれが見受けられる部分もあると思われる。現状に即した介護計画になるような工夫が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録記入している。日頃の生活状況の記録、申し送りノートに活用し、情報の共有をしている。介護計画への反映。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	来所された時や、電話等でのご家族から相談があった時は、ニーズに対応できるように努めています。例として、買い物支援、受診の付き添い、訪問マッサージ、ご家族の手作り料理の提供等。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議ホームの協力をお願いしている。消防署から指導を受けての訓練の実施や、ボランティアの訪問がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の協力も得て従来からのかかりつけ医の受診の支援をしている。家族に同行し、情報の共有を図っている。訪問診療や、訪問歯科受診を受けている。毎月の受診予定を一覧表にしている。	ホーム提携医への受診は主に看護師の同行で支援している。従来からのかかりつけ医の受診は家族に協力してもらっているが、診療情報はホームでも共有している。また、年1回の健康診断で健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	正看護師、准看護師2名の配置や、常に連絡相談する協医に必要な応じた相談、支持を受ける対応ができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は生活内容や医療情報を提供し、面会状態確認し混乱や不安を少なく、退院後は生活出来やすいよう助言を受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、本人、家族に方針を説明している。看取りの方針は設備されていないが、重度化した入居者の支援は行っている。重度化した際、ホームの看護師が、日頃の状態など医師に伝え支持を受け、また家族に報告、相談、説明をしている。	ホームとして看取りは行っていないが、重度化した場合のホームの方針を整備し、家族に説明している。重度化した場合や急変時は看護師が中心になり、主治医の指示を仰ぎながら対応している。看護師が講師で重度化に関する勉強会などを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の体制はマニュアルを備えつけている。職員の救命講習に参加し、技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署の立ち会いを含め、年2回火災、消火、通報、夜間想定訓練等を行っている。実施後は反省点を話し合い、次につなげている。備蓄品はペットボトルの水や日常的に使用できる米、乾麺等位なので、徐々に用意したい。	年2回、避難訓練、消火訓練を実施しており、そのうち1回は消防署立ち合いで行っている。今年度は多くの消防署員の参加で様々な課題が指摘され、次回の訓練につなげるための良い機会となった。備蓄品に関してもヘルメットなど段階的に準備をしている。	地震や夜間など様々な場面を想定した訓練、通常の職員体制での訓練も必要と思われる。また、避難後の利用者の安全を確保するためにも、近隣との協力体制を具体的に話し合うことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけるような態度や、言葉は慎み、一人ひとりに尊重した、言葉かけを常に心がけている。	常日頃より声かけを含め利用者一人ひとりを尊重したケアに努めている。管理者は職員の日常の対応で気になる部分があった場合は、その都度注意を促している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服選び、買い物、入浴、自分の意思で決めることができるような言葉かけを心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは、ある程度決まっているが、その中でも、一人ひとりのペースを大切にし、希望にそって支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとり、洋服、髪型など、その人にあつた、好みに合わせるよう、対応に努めている。また、外出、行事ごとには、お化粧品、マニキュアなどのおしゃれもしている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人のもてる能力を大事にし、その人に合った、準備、茶碗拭き、下膳などをお願いしている。利用者の希望で、外食に行くこともある。また、利用者の体調に合わせて食事形態も変えている。	毎日の献立は利用者の希望を取り入れ決めている。月に2、3回は利用者と共に食材の買い出しに出かけたり、誕生会や季節の料理、外食などで食べる楽しみを大切にしている。テーブル拭きや茶碗拭きなど、可能な限り利用者にも手伝ってもらっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、献立を作成。個々の状態により、食べる量、食物形態を変えている。飲食状態の記録もある。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、その人に合った口腔状態や、本人の力に応じた口腔ケアをしている。夜間は、義歯を預かり、洗浄をしている。訪問歯科により、定期的に、口腔内をみていただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。可能な限りトイレでの排泄に努めている。	日中はできる限りトイレでの排泄を基本とし、時間を見て誘導している。夜間はポータブルトイレを使用するなど臨機応変に対応し、排泄の自立に向けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの身体状態に合わせ、運動、飲食物の工夫に努めている。看護師や、かかりつけの医師に相談を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	主に午後を入浴時間としているが、入浴者の希望に応じ、対応している。毎日でも入浴は可能。	季節には菖蒲湯やゆず湯などで楽しんでもらっている。入浴をしたくないという利用者もいるが、声かけの方法やタイミングを見るなど、工夫しながら支援している。重度化が進んだ利用者にはシャワーキャリーを使用したり、二人体制で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の状況により、休息を促し安眠できるよう、寝具、室温、環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量について、理解しており、ホームで管理している。事務所、個人記録の裏に説明書があり、確認できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々に応じて、軽作業などをお願いしている。(草取り、床拭き、洗濯干し、たみ、食器拭き)嗜好品は本人と購入する。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は、なるべく戸外に出かけたり、庭園に出て、日光浴や活動に楽しむ人もいる。また家族対応の受診、外出、外泊への協力を図っている。ホームの行事にそって、その都度企画し、外出の機会を作っている。	天気が良い日には散歩に出たり庭でおやつを食べるなど、外気に触れるようにしている。また、季節ごとの花見や地域のお祭りなど行事としても外出する機会をつくって支援している	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の管理能力に応じ、自己管理、ホーム管理を行っている。その人に合った対応を行い、買い物支援も行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の自由で、希望により電話が出来るよう支援している。また、年賀状など本人の自筆で家族、友人に送るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは利用者が、一番長く居る場所なので、光、湿度、音、清潔、などに気をつけている。また季節にそった花、掲示物などを飾っている。	季節の花が飾られたリビングには畳のスペースもあり、利用者の気分に合わせて自由にくつろげるような造りになっている。職員はカウンターキッチンから利用者の様子を見守りながら、コミュニケーションを取っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりが、気に入った場所で過ごして頂くように、場作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれ親しんだ、家具や寝具、備品が持ち込まれていたり、用意されている方もいる。(家族写真など)本人が心地よく過ごせるよう、工夫に努めている。	各居室にはクロゼットが備え付けられており、部屋を有効に使うことができる。利用者は思い出の写真など大切な物や花を飾るなど、居心地よく過ごせるような居室をつくらせている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが、身体能力を活用して生活ができるよう工夫している。環境の整備		